

## 大野市人口減少対策会議専門部会 地域づくり部会 報告書

### 1 はじめに

地域づくり部会では、地域の活性化をテーマとし、若者の地域活動への参加促進や魅力ある地域づくりについて議論した。

人口減少対策会議委員である大野青年会議所理事長の葎安氏を部会長とし、地域づくりなどに取り組む団体に属する30～40歳代の市民5名が参画して、3回開催した。

団体、集落、地区といった3つの観点から、課題を洗い出した上で、課題解決の方向性と、それに向けて市民でできること、行政に求める支援について、各部員のこれまでの経験を基に議論した。

また、将来的に地域のリーダーとなるいわば中堅の世代として、上下の世代との関係性についても議論の対象とした。

### 2 論点整理

青年団体活動や地域、集落における若者の悩み、不安、課題を洗い出す段階で、以下の3つの論点が浮かび上がった。

論点 1	青年団体活動の活性化に向けた情報発信・情報共有について
<p><b>【課題や背景】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動のアピール不足</li> </ul> <p>団体や地域の活動を活性化したり新たな人材を発掘したりするためには、活動内容などの情報を広く市民に伝えることが必要となる。</p> <p>現状は、団体の行う行事やイベントに関するテレビや新聞による報道が、年に数回あるだけに留まっており、情報発信としては不十分である。</p> <p>すでにSNSなどを活用した情報発信をしている団体もあるものの、団体間で意見交換をしてみると、お互いの活動状況が知られていないことが分かった。</p> <p><b>【目指すべき方向性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信の機会などの拡大</li> <li>・団体の紹介だけでなく活動内容や特色を知ってもらえるような情報発信</li> </ul>	

## 論点 2 活動の活性化に向けた人材確保・人材発掘について

### 【課題や背景】

#### ・人材不足

既存の青年団体においても、発足当初の会員が活動の主体であり、若い世代の加入が少ない。女性の会員は結婚や出産といった生活環境の変化に伴い、団体の活動から遠ざかってしまう傾向にある。こうしたことにより、メンバーの固定化が進み、活動に新しい観点が生まれにくくなっている。

#### ・活動の拠点

公民館は、利用時間の制限があり、使いにくさや使用料金が発生する場合がある。いつでも気軽に集まり、活動しやすい場所づくりが必要となっている。

### 【目指すべき方向性】

- ・団体同士の横のつながりの強化による人材発掘
- ・地域外からの受け入れによる人材確保
- ・新たな団体活動が次々と生まれる環境づくり

## 論点 3 持続可能な地域づくりに向けた地域活動の継承について

### 【課題や背景】

#### ・世代交代に対する不安

地域運営は団塊の世代を中心とする世代が主体となっており、この世代と将来のリーダーとなる30～40歳代の間には、地域づくりに対する価値観の違いなどがある。

また、30～40歳代にとっては、親の世代との関係において、地域のことについて丁寧に引き継がれていない、将来に対する話し合いがないといった不安がある。

さらには、将来的に自分たちがリーダーになった時に、同様の課題が下の世代との間で生まれる可能性が高い。

#### ・地域活動の継続性に対する危機感

地域では人口減少が進んでおり、後継者不足が問題となっている。

また、メンバーや行事の固定化による、行事のやらされ感や新しい提案の不足といった問題があったが、今回の新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う地域行事の中止などによって、それらが表面化しているとともに、活動機会の減少によって住民意欲のさらなる減退につながっている。

伝統文化の継承などにも大きな危機感がある。

### 【目指すべき方向性】

- ・住民の声を取り入れる仕組みづくりと、取り入れた声の反映
- ・人口減少の現状を見つめた、将来に対する話し合いの場づくり

### 3 提案内容

前述の論点を基に、意見交換を通して提案内容をまとめた。

<b>提案 1</b>	<b>団体や地区同士の情報共有による相互理解と情報拡散</b>
<b>【自主的な取組みと効果】</b>	
• <b>SNS等を活用した団体間の情報共有と情報拡散</b> 主に青年団体等で、フェイスブックやインスタグラムといったSNSの相互リンクを構築し、各団体が他団体のイベントや活動をPRし合う。また、この情報共有を行う事で、団体同士の結びつきが強くなり、団体が協力し合える関係が構築される。併せて、これまで以上に情報を拡散することで市民に対する認知度の向上が期待される。	
• <b>地区ごとのイベント、祭のマップの作成</b> 各地区において、既存のイベント情報よりもより地域に密着した行事のカレンダーやマップを作成し、市全体で共有する。情報の共有を通して市民や集落、地区の交流が生まれ、各地区が相互に情報を活動に役立てることで、市全体として地域づくりが盛り上がることを期待される。	
<b>【必要とされる支援】</b>	
• <b>市の情報発信ツールの活用</b> 市のホームページ、結の故郷フェイスブックなどを活用し、団体活動のPR支援を行う。 また、市独自の市民向け情報発信アプリの開発などを検討する。 SNS等が使えない年齢層にも、活動を知ってもらえるよう、広報紙などを活用する。	
• <b>公民館活動を通じた支援</b> 上記の地区ごとのカレンダーやマップ作りに対し、公民館活動を通じて支援する。	

<b>提案 2</b>	<b>連携、協力による人材確保と気軽に活動できる環境づくり</b>
<b>【自主的な取組みと効果】</b>	
• <b>団体間での交流を通じた協力（イベント手伝い等）</b> 前述の情報発信による連携を通して、団体間の連携を強化し、協働事業や交流会の検討を行う。団体の相互協力により、人材の確保と活動の活性化が期待される。	
• <b>移住者などの受け入れ態勢づくり</b> 地域を気に入って移住してくる人やリモートワーク等の増加によって地方回帰する人の受け入れに対し、地域での意識醸成や体制構築に向けて取組みを始める。若者の受け入れにより、地域を担う新たな人材の発掘が期待される。	

### 【必要とされる支援】

#### ・人材確保の支援

市内の若者（高校生、新成人）に対し、団体活動をPRすることで、将来の地域づくりの担い手となる人材を確保する。また、大学生などを活用することで、青年団体等の活動を支援し、現状の人材不足をカバーする。

#### ・小規模グループの設立と定着に向けた支援

既存の補助金（結の故郷づくり交付金事業、市民協働推進事業、世代間結づくり事業補助、青年活動推進事業補助）を見直し、同じ世代や共通の目的などを持つ市民が、気軽に小さな団体を形成し、自由に活動しやすい環境を整備する。

また、市民や団体が新しいことにチャレンジすることと活動を継続することの両面を支援できる仕組みづくりを検討する。

若者が使いやすい活動拠点として、公民館の運営のあり方などを検討する。

### 提案3 | 地域の継承に向けた新たな取り組み

#### 【自主的な取り組みと効果】

#### ・次世代に適した活動内容の検討

住民のひとりひとりが地域の中で役割を持ち、活動にやりがいを感じられることを重要な観点として、地域活動の見直しや協働、連携について検討する。住民同士の話し合いによって、地域が次世代へと引き継がれていくことが期待される。

#### 【必要とされる支援】

#### ・世代ごとのニーズ把握

アンケート調査の実施などにより、さまざまな世代の男女が地域づくりの現状を把握し、今後の地域のあり方について意見することのできる機会を作る。

また、これまでの地域づくりにおける「一家一票制」を「一人一票制」に転換していくための取り組みを始める。

## 4 検討経緯・部会員

### (1) 検討経緯

回	開催日	内容
第1回	8月28日(金)	所属する団体等の活動内容を情報共有した上で、団体・集落・地区における悩み・不安・課題と世代間において感じるギャップについて議論した。
第2回	9月16日(水)	団体・集落・地区における課題を解決するための方向性や、解決に向けて当事者としてできること、必要とする行政の支援について議論した。
第3回	11月5日(木)	これまでに出た意見を深め、最終の報告書案について確認した。

### (2) 部会員

所属	氏名	備考
大野青年会議所	葭安 啓貴	人口減少対策会議委員
しもプロ	竹内 大策	
田んぼで遊び隊	山川 貴弘	
蕨生里神楽	旭 政一	
阪谷青年団	笹山 晃一	
和泉自治会	北爪 孝志	

(敬称略)

#### (大野市)

所属	氏名	備考
大野市企画総務部総務課地域振興室	中屋 克己	
大野市企画総務部総務課地域振興室	廣田 直樹	
大野市教育委員会生涯学習課	天木 邦治	
大野市企画総務部政策局総合政策課	松山 倫也	事務局